

The Nativebuster Grammar Basic Contents

あなたの英文法の常識をくつがえします

ここまでやるのか、これなら話せるようになるな。そう思っただけの教材を作りました。会話のための言葉のルールの手得です。そしてその練習量の多さ。半端ではありません。言葉を体に馴染ませるため、かなりの練習量はどうしても必要だからです。

基本的にスマートフォン、タブレット、あるいはパソコン上でネイティブとの対話を通して、“聞き話す”中で修得していきます。

Nativebuster 基礎英単語編で学習する英語表現満載ですので、英単語の学習も同時にしてしまうことになります。

● 始める前に Yes, No のトレーニング

ネイティブからの質問に Yes, No で答えていただきます。日本人の9割以上がこれがかまできません。初級者では、前置きなしに一回で完璧にできた人はほとんどいません。挑戦してください。

以降大まかですが、以下のような順序で行います。

1. 質問をする

Yes-No questions はもちろん、what, who, where, when, why, who, how と言った言葉を使った質問を口頭でする練習が満載です。どんな質問をするかもネイティブの声で指示が出されます。be 動詞の位置を変えろとか、do を付け加えろとか、そんな発想ではなく、**聞きたい気持ちが即質問文に変わっていく**、そこまでのトレーニングをしていただきます。たっぷりあります。

2. 代名詞

単に、he, she, it, they, etc. ではなく、代名詞を使うことの意味、その役割を理解します。

3. do を使いこなす

この便利な動詞をほとんどの日本人が使いこなせていません。様々なイラストを交え、**ネイティブ感覚の do の使い方を体得**していただきます。目からウロコのはずです。

4. 前置詞

日本人の苦手な前置詞、どこでつけるか、何をつけるか、そんな発想だから暗記になってしまいます。**前置詞を言うべき時に言いたくなる、言うべきでないときには、言わな**

いことが自然になる。そんな口頭練習が用意されています。

5. 助動詞

can は “できる “、could は “出来た”、should は “すべきだ “ このような発想ではとても使いこなせません。日本人が特に苦手な、can, could, should, must, may, might を練習します。助動詞の気持ちを知り、言うべきときに言いたくなるように、自分でナレーションする練習を通して助動詞の気持ちに馴染みます。

6. what, who, where, etc. + S + V

I don't know **who she is**. You haven't told me **where you went last night**. Could you tell me **what it looks like**? このような who, where, what, when, why, how, if(whether) の使い方が感覚的にできるようたっぷりの口頭練習をします。

ネイティブの質問に答えたり、答えるのを拒んだり、**感覚となるまで、これでもかと言うほどの練習を手を変え品を変え何度も何度もしていただきます**。この英文構造が使いこなせれば、あなたの表現力は格段に広がります。とても大切な unit です。Intermediate 編でも、さらに発展させたバージョンで unit を組んでいます。

7. 時制

もっとも大きな Unit です。英語の時制は現在、過去、未来の三つと知っている方がかなりいらっしゃいますが、英語の時制は実は 12 通りあります。英語がペラペラの人はその 12 通りを使いこなしています。いきなり 12 通りは無理としても、現在完了を含めた 6~7 通りは使いこなせないと日常会話に支障をきたします。**この解説部分では、時制を徹底的にイメージで植えつけます。目からウロコの解説が随所にあるはずです**。口頭練習では、ドリルプラクティス、アニメーションを見て、正しい時制で質問に答えたり、言い直したり、ナレーションしたり、7 通りの練習があり、それこそ会話練習で徹底的に、鍛え、正しい時制でないと不自然に感じてしまう語感を育てます。

8. 会話の内容を人に伝える

ある人に、こんなことを聞かれた。こんなことを言った。と他人に聞かれたことや、言ったこと、あるいは人の会話内容を第三者に伝える練習です。**人称、時制の一致、間接疑問、など学校英語では悩まされたことも、あなたのイメージの中で必然に変えていきます**。会話を伝える、質問の内容を伝える、ナレーションなど、たっぷりの練習をしていく中で、文法事項を考えることなく、それでいて正しい英語になっていく、そんな力をつけていきます。

9. 名詞の拡大

この unit も大きな unit です。Basic では前置詞によるものと、関係代名詞によるものを扱いますが、二つのポイントに重点を置きました。

日本人が英語での名詞の修飾が苦手なのは、日本語と英語とでは、語順がまったく逆だからです。日本語訳に頼らず、イメージで名詞が修飾できる訓練。特に関係代名詞では、関係代名詞の主格だの、目的格だのにとらわれず、一つのイメージで名詞が修飾できること。関係代名詞を意識することなく、関係代名詞を使ってしまいう感覚をつけていきます。

もう一点は、拡大された名詞、たとえば the flower shop across the road from the library, the bag I bought at the mall yesterday, などを一つの名詞、一つの単語として文中で自由に使いこなせるかです。こちらのほうが実は名詞の修飾そのものよりはるかに大変で練習を要するのです。イラストをたくさん交えたたっぷりの練習で、その感覚を育てます。

10. 比較

学校英語で“比較”ほど必要以上に難しく教えられてきた文法事項はない。ほとんど文法事項というほどのことでもありません。そのことが分かるはず。わかってしまうとこんなに簡単。目からウロコを保証します。もちろんたくさんの会話練習が用意されています。

11. 他人に何かして欲しい気持ち

日常生活で、非常によく言うことです。この人にこうしてほしい。あの人にこんなことを頼んだ、こうするように指示した。よく言います。英会話初心者には少しややこしいこの文構造も、たった一つの英語の基本構造、S+V に従っていればいいということが分かります。様々な状況、様々な人間関係、様々な文脈で、これでもかと言うほどの練習をしていただきます。

12. make と let

ここで扱う make と let が使いこなせれば、あなたの英語は大幅にネイティブのそれに近づきます。日本人はこの二つの単語をネイティブの10分の1、もしかしたら100分の1も使っていません。どちらも他に働きかけるイメージですが、そのイメージは一つです。たくさんのアニメーションを交えた、生きた会話練習が待っています。

13. 他人に何かして欲しい気持ち、させてあげる気持ち、その総合練習

とても大切な Unit 11 と 12 の内容を絡めた、練習です。たっぷりのナレーション課題があります。手応え十分の口頭練習となります。

14. 動詞 ing と to-動詞の原型

現在分詞の何々用法、不定詞の何々用法。そんな役に立たない知識から解放します。どちらもたった一つのイメージで解決するはずです。ここでも目からウロコを保証します。質問したり、答えたり、意見を言ったり、ナレーションをしたり、様々な練習を用意しました。

15. too と enough

too と enough も視覚にうったえ、イメージによる理解ができるよう解説されています。意見を述べるような練習がたっぷり用意されています。